

拡張する江戸

都市江戸は、明暦3年(1657)の大火で大きな被害を受けた後、都市の構造を改変しつつ成長していきました。その後も都市域の拡張は無秩序に進行し、文政元年(1818)には、幕府の中心にいる役人たちの間でも江戸の範囲がわからないという事態に至りました。

そこで評定所での評議をふまえて、江戸＝御府内の範囲を決めた結果が下の図に描かれています。黒い墨で書き込まれたのが町奉行の支配範囲、これよりも外側に設定された朱引きの内側がこの時定められた御府内の範囲です。

実はこの図は明治以降に写された絵図で、東京都公文書館には、これとは別に実際に幕閣たちが議論した際使った絵図も残されています。



旧江戸朱引内図